

発刊にあたって

根室市長
石垣 雅敏



根室市の水産業は、北方海域の豊かな水産資源を背景に、北洋漁業の開拓とともに発展を遂げて参りましたが、国際漁業規制の強化等によって、沖合漁業は縮小を余儀なくされるなど、漁業を取り巻く環境は依然厳しいものであります。

また、去年は水産都市・根室の生命線であり、本市経済の源とも言えます水産物の取り扱いにおいて、主要魚種が軒並み漁獲不振となり、特にサンマの水揚げ量は、自然災害とも言える記録的な大不漁となるなど、塗炭の苦しみを垣間見た一年となりました。

しかしながら、全国的に不漁に見舞われた中であっても、本市においては、一定程度の水揚げがなされ原魚が確保できましたことは、漁業関係者皆様のご努力の賜物であり、水産都市・根室としての矜時を感じたところであります。

水産業を取り巻く環境に目を向けますと、国においては、水産資源の適切な管理と水産業の成長産業化を両立させ、漁業者の所得向上と年齢バランスのとれた漁業就業構造の確立を目指し、水産政策の改革を推進するなど、水産情勢は目まぐるしく変化しており、市と致しましても、こうした情勢の変化を的確に捉え、将来展望を描いて参りたいと考えております。

こうした中、現在、沿岸振興施策の柱として進めている「ホタテ養殖」や「ベニザケ養殖」において、いずれも着実な成果が得られております。今後、より一層、水産資源の増大を目指しながら、漁業生産の早期回復と資源の恒久的な利用が図られるよう、生産体制の構築の確立に向け取り組んで参ります。

本年、いよいよ「根室市栽培漁業研究センター」がオープンいたします。北方四島における共同経済活動の漁業分野での基幹施設の役割と同時に、日本で有数の沿岸域を活かした新たな挑戦の基地として、本市の沿岸漁業振興はもとより、地域経済の振興に寄与して参ります。

この度、本市水産業の現状を紹介する「令和元年度版 水産ねむろ」を発刊致しました。

本市の水産の姿をご理解いただき、今後とも「水産都市・根室」の再生・再興に向けお力添えを頂ければ幸いに存じます。

令和2年3月